

## 四旬節第1主日

福音朗読 マタイ 4・1-11

2023.2.26

カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日、四旬節の始めに当たって、福音朗読はイエス様が荒れ野で悪魔から誘惑を受けられたという場面が読まれました。

悪魔の誘惑は、最終的には「自分にひれ伏せ」ということが明らかになります。最初は空腹だったら石がパンになるように命じたらどうだっていうことから始めて、3つの誘惑が出て来るんですけど、最後は「ひれ伏せ」。でも、いきなり「ひれ伏せ」って言わないで、だんだんにそっちに持って行く。

信仰のない人から見れば、わたしたちが神様と呼んでいるものにひれ伏して言いなりになるのか、悪魔あるいはサタンと呼んでいるものにひれ伏して言いなりになるのか、人間が自分の外側のものの言いなりになるという点ではおんなじではないのか、そういう印象を持たれるかもしれないんです。先週も言ったんですけど、宗教あるいは信仰を持つということは、自分自身の考え、脳みそや心を誰か他の人に預けちゃってロボットになるようなイメージを持たれているということが往々にしてある、ということです。

しかし、今日の福音の中でもイエス様がおっしゃいました、「あなたの神である主を拝み、仕えよ」。「あなたの神である主を拝み、仕えよ」というのは、何か自分以外のものの言いなりになるということを表わしているものではありません。なぜならば、聖書が語っている神様というは、わたしたちの造り主であるかたである。造り主なんだ、ということです。わたしたちをお造りになったかた、そのかたを礼拝し、仕えるっていうことは、神様がお造りになった自分自身をちゃんと受け取って生きるっていう意味なので、現代風に言えば、自分自身を生きるっていう意味だと言ってよいでしょう。

なので、今日の福音でイエス様が体験した悪魔からの誘惑っていうのは、神様に仕えるっていうことから離れさせようとする、つまり自分自身を生きるっていうことから、気が付かないうちにだんだん、だんだん自分自身が生きられなくなる状態に行く、そういうところに引っ張って行く力がとっても強いし、それは気が付かないうちにいろんなところに働いている、っていうことを表していると言って良いんじゃないかなと思います。

空腹だったら石がパンになるように命じる、あるいは、屋根から飛び降りても足が石に打ち当たらないようになるべきだって考える、あるいは、繁栄を手に入れるためにサタンにひれ伏す。そういうことを、言い換えれば、自分の都合で周りを変えたい、自分ではなく自分の周りが変わるべきだ、って思う。そして、自分自身がしているバカなことの責任は負わされるべきではない。言い換えれば、なんでもかんでも人のせいにする。そして、繁栄のために悪魔にひれ伏す、というのは、損か得か、特に経済的に損か得かを基準にして行動しているうちに、自分が自分でなくなってしまうよ。そういうことをわたしたちの目の前に明らかにしてくださるということなんじゃないかなと思います。

イエス様はそれらの誘惑を全部退けられる。その反対だったわけですね。他の物をパンに変えて食べ物にしていく代わりに、ご自分がパンになられた。そしてご自分の責任じゃない、わたしたちのバカな行動つまりは罪の責任を負うために苦難を引き受けられて、そして父である神様だけに仕える。そういう意味で、自分自身の人間性を完全に生き切った。そういうかたでした、ということを表わしています。今日の、イエス様がサタンの誘惑を全部退けられたというのはね。

わたしたちも、そのイエス様のみ後に従って、そしてイエス様が共に歩んでくださるんだということに信頼しながら、責任を全部周りに持って行って損か得かで行動しているうちに自分が自分でなくなってしまうっていう道から、そうじゃないそれぞれの自分の人生を、与えられた自分自身をちゃんと受け取って歩んで行く、そこにある苦難を恐れることなく、ということに招かれているし、そうしてこそほんとに生まれてきた甲斐があるというか、真の幸せに達するんだということをいつも思い起こす。そのようなイエス様の道へと招かれているのだらうなと思います。

今日、洗礼志願式がございます。新しい仲間を迎えることができるという恵みは決して当たり前ではない。多くの教会で、洗礼を受ける人が何年もいないということが多く。しかしわたしたちの共同体が新しいメンバーを迎えることができることを、神様からの恵みとして、またそれが故に責任もある。共に生きていく、そしてこの地においてまことに一人ひとりが神様から与えられた自分自身を生きる道があるのだ、それが示されている、はっきり言えば、イエス様を示す役割を担っている責任を新たに思い起こしながら、今日のごミサを通してお互いのために恵みを願い合いたいと思います。

それでは、これから洗礼志願式に入りたいと思います。